

1 学校施設の現状と今後の課題について

(1) 学校施設修繕費の状況

市内19の小中学校については、建築から40年以上経過した建物が大半を占めており、様々な部位や箇所での老朽化が進んでいる。過去3年間の修繕費の年平均額は、小学校費は約25,829千円、中学校費は約10,298千円で、小中学校の合計では約36,127千円となっており、毎年多額の修繕費が発生している。耐用年数の経過から突発的な修繕が増加しているため計画的な更新に努めている。

□学校別修繕費集計表

(単位：千円)

学校名	H30年度	R元年度	R2年度	合計
石和南小	3,256	1,552	1,869	6,677
石和東小	1,725	2,134	1,459	5,318
石和北小	1,520	3,085	1,727	6,332
富士見小	2,957	2,599	630	6,186
石和西小	807	888	1,286	2,981
御坂西小	2,757	1,301	1,551	5,609
御坂東小	2,533	1,149	938	4,620
一宮西小	1,219	1,149	3,124	5,492
一宮南小	850	1,532	2,397	4,779
一宮北小	2,892	2,017	857	5,766
八代小	1,542	1,797	2,248	5,587
境川小	4,908	2,979	2,223	10,110
春日居小	1,038	2,029	2,461	5,528
芦川小	579	573	1,351	2,503
小学校計	28,583	24,784	24,121	77,488
石和中	1,177	4,219	4,160	9,556
御坂中	2,293	2,508	2,394	7,195
一宮中	625	1,354	1,611	3,590
浅川中	5,619	1,393	561	7,573
春日居中	938	1,091	951	2,980
中学校計	10,652	10,565	9,677	30,894
小中学校計	39,235	35,349	33,798	108,382

(2) 直近の改修計画

令和元年に策定した「笛吹市学校施設長寿命化計画」に基づき、毎年計画的な改修に着手している。施設の状況により緊急性を伴う施設については、前倒しして改修の準備を進めている。

【令和3年度】

浅川中校舎（長寿命化改修）、一宮北小校舎

【令和4年度】

石和南小屋内運動場、石和北小校舎・屋内運動場、一宮西小校舎

【令和5年度】

御坂中学校、一宮南小校舎、境川小校舎、石和中校舎

【令和6年度】

御坂東小校舎、一宮北小屋内運動場、境川小屋内運動場、プールの解体

【令和7年度】

石和中屋内運動場、春日居中校舎

直近の大規模工事

○浅川中学校の長寿命化改修工事

校舎の耐力度調査による結果から、建築物の健全性が高いことから長寿命化改修の手法を選択しそれに基づいて改修工事を進めている。

また、この工事に併せて体育館へのトイレ設置工事や老朽化した部室棟の改築工事等も行っている。

【工事期間】 令和3年11月1日～令和5年1月20日

【工事内容】 ①校舎長寿命化改修工事

②技術科棟改修工事

③屋内運動場トイレ設置工事

④部室棟改築工事

⑤外構工事

○御坂中学校の改築工事

校舎の耐力度調査の結果から建築物の健全性が低いため改築を検討している。

校舎の形状から長寿命化改修より改築の方が工事金額を抑えられると考える。

併せて、柔剣道場・部室棟の改築も検討している。

【工事予定期間】 令和5年12月26日～令和7年2月20日

【工事予定内容】 ①校舎改築工事

②柔剣道場改築工事

③部室棟改築工事

④外構工事

(3) 特別教室への空調設置について

近年は、気温が 35℃を超える猛暑日となる日が増加しており、児童生徒の快適な学習環境の確保が大きな課題となっている。本市小中学校の空調設備設置状況は、普通教室は 98.9%、特別教室は 42.4%で、すべての特別教室へ整備がされていない状況にある。現在は毎年 1～3 か所の特別教室へ整備を行っているが、一括整備等に向けては事業手法等の検討が必要である。

□公立学校施設の空調（冷房）設備の設置状況（文部科学省調べ R2 年 9 月 1 日現在）

設置者名	普通教室	特別教室	合計
笛吹市	98.9%	42.4%	76.8%
山梨市	100.0%	72.0%	84.8%
南アルプス市	100.0%	62.3%	82.0%
北杜市	97.5%	54.2%	72.7%
甲斐市	100.0%	93.7%	97.5%
甲州市	98.7%	31.8%	62.5%
中央市	99.2%	61.9%	83.6%
山梨県平均	95.2%	65.3%	80.8%
全国平均	93.0%	57.5%	75.7%

(4) トイレの洋式化について

学校施設のトイレについては、ほとんどの家庭で洋式トイレが普及している中で、全国的にもまだまだ洋式化の整備が進んでいない状況にあるが、各自治体において普及率向上に向けた取り組みを始めている。本市の校舎及び屋内運動場の洋式化率は 56.4%となっており、現在はリース方式による一括更新の準備を進めている。

□公立学校施設のトイレの状況調査（文部科学省調べ R2 年 4 月 1 日現在）

設置者名	洋式化率
笛吹市	56.4%
山梨市	62.2%
南アルプス市	66.3%
北杜市	75.0%
甲斐市	60.4%
甲州市	72.6%
中央市	63.2%
山梨県平均	66.2%
全国平均	57.0%

(5) その他の課題

- 学校プールの老朽化対策（学校プールの民間活用等）
- 特別支援教育に係る施設改修
- 指定避難所とされている学校の安全性の確保・防災機能の強化
- 25人学級への対応

GIGA スクール構想に係る ICT 環境整備と端末利活用状況について

1 ICT 環境整備について

- ・大型提示装置…224 台（各教室及び特別教室）
- ・教師用タブレット PC…300 台（9 月補正で 30 台追加）
- ・児童生徒用タブレット PC…4924 台（既存 689 台含む）
- ・校内 LAN の整備…小中学校を 5 エリアに分け、校内に LAN ケーブルやアクセスポイント等を設置。7 月に増強。
- ・モバイル Wi-Fi…192 台（インターネット環境が未整備の家庭への対応）

2 利活用状況について

(1) ICT の利活用推進に向けた組織

市 ICT 連絡協議会…ICT の運用やソフトウェアの活用に関する研修等

市学力向上研究委員会…ICT を取り入れた効果的な授業に関する研究等

(2) ICT を利活用した学習について

【一斉学習】

- ・デジタル教科書やデジタル教材による動画や音声の活用
- ・インターネットを利用したデジタル教材の提示
- ・テレビ会議システムによるリモート学習（工場見学等）
- ・児童生徒のノートやワークシートを大型モニターに投影し、全員で考えを共有。

【個別学習】

- ・習熟に応じた個別学習（教科書の QR コード、教科書会社のデジタル教材等）
- ・インターネットを利用した調べ学習
- ・パワーポイントやワードを使用した発表資料の作成
- ・動画撮影機能を利用した音読やスピーキング練習等
- ・プログラミング学習

【協働（グループ）学習】

- ・ホワイトボード機能（一つの画面をグループで共有し、それぞれのタブレット PC から同時に書き込みができる協働編集機能）による資料作成
- ・理科や音楽、体育等における撮影した静止画・動画による学び合い
- ・グループでの話し合いを録音し、発表時や振り返りでの活用

【やむを得ず一定期間学校に登校できない児童生徒のための利活用】

- ・ Teams（マイクロソフトのコミュニケーションソフト）のテレビ会議システムによるオンライン授業、オンライン面談
- ・ Teams の課題配布機能によるお便りやワークシートの配布
- ・ Teams による児童生徒同士の交流
- ・ 学習サイトを使った自主学習

(3) ICT を利活用した校務の効率化について

- ・ 教員が作成した教材の投影・配布（印刷不要）
- ・ 教員が作成した教材の共有化
- ・ アンケートや申込書の配布、集計（生徒会活動での活用も含む）
- ・ 研究組織や学校間のテレビ会議

3 現時点での成果と課題について

(1) 成果

- ・ デジタルならではの視覚や聴覚に訴える教材提示によって、学習意欲の向上につながっている。（画像の拡大提示、理科の実験結果の確認等）
- ・ インターネットを利用して、場所を選ばずに一人一人が自分の疑問や興味に応じて調べることができる。
- ・ 児童生徒が作成した資料や画像を保存することで、学習履歴としてその後の学習に生かすことができる。
- ・ ICT を利活用した資料作成や発表によって、児童生徒の表現力を高めることができる。
- ・ Teams（マイクロソフトのコミュニケーションソフト）のチャット機能を利用して、児童生徒が意見を交わすことにより、考えを容易に共有することができる。

(2) 課題

- ・ ICT 機器を使いこなせている教員と苦手意識を持っている教員とで、活用状況に差が出てきている状況があり、市や校内での研修を推進していく必要がある。
- ・ タブレット PC 等の利活用が目的化しないよう、授業の中で効果的に取り入れる方法について引き続き組織的に研究を進めていく必要がある。
- ・ タブレットを積極的に活用している中で、児童生徒の健康面への影響も懸念されることから、利用頻度についても考慮していく必要がある。
- ・ デジタルドリルを活用した個別最適化（習熟度に合わせた自動出題やつまずきの自己認識）した学習によって、学力の定着を図っていくことも必要である。

○テレビ会議システムを利用した全校集会



○大型提示装置を使った教材の提示



○一人一台端末を使った学び合い

